

東京音楽大学リポジトリ

Tokyo College of Music Repository

図書館の展示

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-01-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鳥海, 高広, Toriumi, Takahiro メールアドレス: 所属:
URL	https://tokyo-ondai.repo.nii.ac.jp/records/941

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



図書館の展示

日本データベース開発株式会社
島海高広

はじめに - オープンキャンパスをきっかけとして -

2013年5月に東京音楽大学として初めてのオープンキャンパスが開かれました。

そこで、広報課からの要請により、来場者に大学について知ってもらうきっかけの一つとして付属図書館の所蔵資料を展示することになり、私も図書館からの依頼により展示作業を協力することになりました。近年図書館では所蔵する資料の展示はほとんど行っていませんでした。展示用ケースはレンタルで広報課が用意してくださいました。

オープンキャンパスの趣旨を鑑み、本学を受験する中学・高校生とご家族向けに、普段一般の方が目にしない珍しい資料を展示するのが良いのではないか、ということになり、下記の資料を選びました。

1. 五線紙以外に書かれた楽譜
2. かわいいイラストが入った楽譜
3. 古い印刷譜
4. 作曲家の自筆譜のファクシミリ版
5. 「大学史コレクション」の中から、本学設立者である鈴木米次郎¹先生の資料や創立初期の校章
6. 伊福部昭²先生から寄贈された明清楽³の楽譜
7. 池野成⁴先生から寄贈された映画音楽の自筆譜

「大学史コレクション」や特殊コレクションは、図書館利用者もあまり目にする機会がなく、オープンキャンパス前日の準備作業中から、教職員や学生からも注目されていました。

オープンキャンパス当日の来場者が展示をどのように受け止めたのかはわかりませんが、資料を展示するという行為に一定の効果と意義を感じる機会になりました。



¹ 鈴木米次郎 (1868-1940)。明治から昭和時代前期の音楽教育家。東京音楽大学の前身である東洋音楽学校の創立者。

² 伊福部 昭 (1914-2006)。日本を代表する作曲家で教育者。元東京音楽大学 作曲科 教授。

³ 江戸時代中期の明朝末期に中国南方(福建を中心とした地方)から日本へもたらされた音楽である明楽と、江戸時代後期に中国南方からもたらされた音楽である清楽の両者を総じて呼ぶ際の用語。両者は明確に区別されるべきですが、清楽が明楽を吸収しつつ拡大したこともあって、一般的にあわせて明清楽と呼ばれています。

⁴ 池野成 (1931-2004)。北海道札幌市生まれの作曲家。元東京音楽大学 作曲科 講師。

これまでの展示

「伊福部昭明清楽コレクション」

2013年11月11日(月)～2014年1月17日(金)

図書館では長い間、寄贈資料は一般流通している資料で未所蔵のもの、利用がありそうな資料に限って受け入れていました。

東京音楽大学の創立100周年に、大学史を編纂するにあたって武石みどり教授を中心に創立百周年記念誌刊行委員会で集められた資料が記念誌刊行後図書館に移管され、初めて図書館に「コレクション」と呼べる資料群が誕生しました。

その後、稲葉事務長が、大学図書館として今後「コレクションの充実を図る」という方針を打ち出し、大学関係者や元関係者の方からの資料提供や寄贈に関する情報を積極的に収集するようになりました。

そうして得られた情報の中から、まずは元東京音楽大学学長で作曲家の伊福部昭先生のご遺族から、先生が収集された明清楽の楽器と楽譜、それに関する資料寄贈のお申し出があり、受けることになりました。楽器に関しては民族音楽研究所に、楽譜及び文書資料は図書館に寄贈されることになりました。

当初図書館では、手つかずのまま資料を保存していましたが、2012年の夏に弊社が目録作業を受託し、漢籍に詳しいカタログラーの手で書誌的事項の入力が行われました。

オープンキャンパスでの経験を活かして、2013年11月に行われた芸術祭で、図書館のコレクションをもう一度を展示してみてもどうか？ という話になり、当時整理中だった「伊福部昭明清楽コレクション」の資料を展示することになりました。

オープンキャンパスの時には、広報課が展示ケースを用意してくれましたが、今回は図書館が自前で用意することになり、学内に保管されていた多用途のショーケースを充てることにしました。

芸術祭での展示に向けて、図書館が所蔵する明清楽の資料の読み込みや、関連する資料や論文を取り寄せる等して、明清楽に関する見識を深めました。

展示に使用する明清楽の資料整理をする過程で、民族音楽研究所の甲田潤先生と、甲田先生に紹介していただいた明清楽器研究家の稲見恵七先生の協力を得ることが出来ました。

稲見先生監修の下、民族音楽研究所所蔵の明清楽器と図書館が所蔵する明清楽の楽譜を一同に展示することになりました。伊福部先生から寄贈された明清楽器と明清楽の楽譜が同時に展示される初めての機会になりました。

甲田先生と稲見恵七先生の協力のおかげで、徐々に伊福部先生の明清楽のコレクションがどのようなもので、その意義がどのようなものかを知ることが出来ました。このことが本格的に明清楽の楽譜を調査・整理するきっかけにもなり、その後2014年3月に整理の結果を『伊福部昭「明清楽

コレクション(資料)』目録』として刊行する運びとなりました⁵。

芸術祭での展示終了後、その余韻を図書館内に残すべく明清楽楽譜については引き続き図書館1階のロビーにて展示することになりました。長い間図書館では所蔵資料の展示を行ってこなかったようですが、オープンキャンパスと芸術祭での展示が、館内で資料の特集展示を行う気運へとつながっていききました。

ただ、一般的に「明清楽」というものがどのようなものなのかが知られていないこともあり、学生を中心とした利用者からの反応は、残念ながら弱かったように思います。



⁵ 東京音楽大学附属図書館編『伊福部 昭「明清楽コレクション(資料)』目録』(東京音楽大学附属図書館, 2014年)。この目録は東京音楽大学附属図書館で配布しています。詳しくはお問い合わせください。

「初期卒業生の活躍」

2014年1月24日(金)～2014年6月14日(土)

「伊福部昭明清楽コレクション」の展示の後も、利用者に特殊資料に触れてもらう場として展示を継続することになり、図書館が今持っている資料の中で、整理が終わっていた「大学史コレクション」を用いて、展示を企画することになりました。

「大学史コレクション」は、本学創立100周年を期に、音楽学教授の武石みどり先生が集めた資料が図書館に移管されたもので、卒業生からいただいた一次資料をはじめ、本学創立者の鈴木次郎氏の資料や関連資料で構成されています。

その中から、明治末から大正時代にアメリカと日本を結ぶ外国航路の汽船の楽士として活躍していた卒業生や、日本初のダンスバンドであるハタノ・オーケストラを中心に展示をすることにしました。

100周年の時に武石先生が作成した展示用パネルが図書館に残っていたので、そのパネルを再び展示し、それに加えて船で実際に配られたメニューとオーケストラが演奏した曲目プログラムと一緒に書かれた印刷物などを展示しました。

こちらの展示も、利用者からの反応は残念ながら薄く、学生の興味が向かない資料をどのように展示するのが良いのか、また展示内容をどのように選べばよいのかを考えさせられました。

Discover! Tokyo College of Music v. 1

東洋音楽学校

初期卒業生の活躍

～船の楽士とハタノ・オーケストラ～

会期：2014年1月24日(金)～

会場：東京音楽大学附属図書館1階

「かわいい楽譜」

2014年6月16日(月)～2014年10月4日(土)

「伊福部昭明清楽コレクション」の展示と「初期卒業生」の展示が、特殊コレクションを中心とした展示だったため、利用者の反応はいまひとつでした。

そこで、次の展示は図書館が所蔵している珍しい資料、その中でも見た目が「かわいい」楽譜を中心に特集展示することにしました。

図書館では、一部雑誌と音楽和書以外は基本的に閉架しているので、利用者が直接資料に触れる機会が極端に少なく、手に取って資料を選ぶことが出来ません。そこで、楽譜の表紙や書かれている楽譜が「かわいい」という観点で資料を選びました。「かわいい」というのは、多分に主観的なものなので、その部分が心配ではありましたが、複数のスタッフにそれぞれ「かわいい」と思う資料を集めることでなるべく偏りがないように配慮しました。

ショーケース内には楽譜の形が「ハート型」の有名な楽譜や挿絵がかわいい楽譜などを展示し、パネルには表紙が「かわいい」楽譜を縮小コピーして貼りました。

こちらの展示は学生にも好評で、展示ケースを写真に撮っていく利用者もいました。





図書館所蔵の…

かわいい楽譜



楽譜の形、挿絵、表紙が
かわいい楽譜を集めました。
かわいくなくても許してね。



東京音楽大学付属図書館1階ロビー

2014年6月16日月曜日スタート

「五感で愉しむ伊福部昭」

2014年10月6日(月)～2014年12月20日(土)

2014年は作曲家で東京音楽大学元学長でもある伊福部昭先生の生誕100年に当たりました。先生が音楽を担当した映画『ゴジラ』の生誕60年とも重なり、テレビや新聞、雑誌等で伊福部先生の特集が生まれ、関連する書籍の出版やコンサートが数多く開催されました。

そこで、図書館でも伊福部先生の生誕100年を記念して何か出来ないか？ということになり、特集展示の企画に協力することになりました。

図書館で所蔵している伊福部先生の資料は一般に流通している楽譜と書籍、それに先生のご遺族から寄贈された「明清楽」の資料のみです。それらを使って展示をするのは難しいと思っていたところ、民族音楽研究所の甲田先生が伊福部先生の資料をたくさんお持ちだということを知り、甲田先生の協力を仰ぐことにしました。

甲田先生は伊福部先生のお弟子さんであり、伊福部先生の民族音楽研究所所長在任中には、一緒に働いていらっしゃいました。

伊福部先生が授業で使っていた資料のコピーや、民族音楽研究所で愛用していた茶器などがあるとのことでした。また、先生の手書き原稿のコピー譜を多数所有しているとのことでしたが、コピー譜を展示することは著作権上問題がありますので、今回は見送ることになりました。

本来なら音楽大学の図書館なので、先生の作品を中心に展示することが望ましいのかもしれませんが、自筆資料が図書館には無く、展示するには様々な許可を取ることが必要でした。突発的に始まった企画で準備が整わず、作品を中心にした展示や、映画音楽を中心とした展示をすることが出来ませんでした。

そこで、民族音楽研究所で所蔵している先生の愛用品を中心に展示することにし、考えたキーワードが「五感」というものでした。先生ご愛用のタバコは臭覚、茶器等は触覚、先生が研究所で飲んでいたコーヒーは味覚という風に考えて、視覚は写真、聴覚は作品という風に当てはめていけば何とか「五感」というキーワードで統一出来ると考えました。

その後展示内容について何度か打ち合わせをするうちに、甲田先生が伊福部先生のご長女である伊福部玲氏に展示のことを相談してくださいました。玲氏が管理する伊福部先生の自筆譜を展示に貸して下さるとの申し出をいただきました。

ありがたい話ではありましたが、大切な自筆譜を管理出来るか不安もあり、当初は図書館スタッフの方々も消極的でした。ですが、とても良い機会なので、自筆譜をお借りし展示することになりました。

さらに甲田先生が伊福部先生のご長男である伊福部極氏にも展示のことを相談してくださいましたところ、先生が生前使用してそのまま現在も書斎にあるピアノをお借り出来ることになりました。

ただ、図書館に楽器を置くことがふさわしいのか？ 当初は戸惑いがありました。図書館内にもピアノの展示に反対する意見がありました。ですが、こちらも貴重な機会なので、お借りし展示することになりました。

自筆譜の展示とピアノの展示が揃ったことで、よりいっそう「五感」というキーワードが補強され、展示に深みと広がりが出てきたと思っております⁶。



世間的にも 100 周年ということで伊福部先生への注目が集まっていたため、何とか一般の人への公開が出来ないかと考えていたのですが、図書館は普段一般の人への公開をしていないこと、また何かトラブルがあっては困るなどの意見があり、なかなかスタッフの同意が得られませんでした。交渉を重ねた結果、大学全体が一般開放される芸術祭期間中ならよいだらうとの許しを得ました。

芸術祭の期間、例年図書館は閉館ですが、今年は展示スペースのみ開館することになりました。

⁶ 詳しい展示資料は本誌に掲載されている甲田潤氏の『五感で愉しむ伊福部昭レクチャーコンサート』の付録を参照のこと。

芸術祭期間の3日間で70名以上の来館があり、熱心に自筆譜を見ている方やピアノに触って行かれる方が多くおられ、あらためて伊福部昭先生の人気の高さを感じました。

せっかくピアノがあるのだから、そのピアノを使って何かレクチャーのようなものが出来ないかと考えていたのですが、図書館の開館時間中に音を鳴らすのはどうなのか？という意見もあり、なかなか開催には至りませんでした。ですが、せっかくの機会なのでなるべく利用者がいない夕方の時間を使ってレクチャーを開催することを企画し、2014年12月11日(木)17:15から図書館1階ロビーにて「五感で愉しむ伊福部昭特別レクチャー」が甲田先生とピアニストの野田晶子さんによって開催されました⁷。

当日は甲田先生が、伊福部先生との出会いからご一緒にお仕事をされた時のエピソード、そして、展示中のピアノについての解説があり、野田晶子さんによるピアノ演奏を交えて先生の代表作の一つである『ピアノ組曲』についての解説が行われました。

こちらは30人程度の参加がありました。



いよくべ あきら
伊福部昭 (東京音楽大学元学長) 生誕百年記念

五感で愉しむ
伊福部昭
特別レクチャー

2014年12月11日(木)17:15-17:45
東京音楽大学附属図書館1階ロビーにて

伊福部先生が作曲の際に使用していた展示中のピアノについての解説や先生作曲の作品を実際に演奏します。
※当日は閉館中のため立ち見となり座席はございません。
学外の方の入場はできません

講演：甲田潤（作曲家・本学講師）， ピアノ：野田晶子（本学卒業生）

⁷ 詳しくは本誌に掲載されている甲田潤氏の『五感で愉しむ伊福部昭レクチャーコンサート』を参照のこと。

今回の展示では甲田先生を始め、伊福部玲氏・安部姜子氏・伊福部極氏の伊福部家の方々など、たくさんの方にお世話になりました。

ただ、外部の方の協力を得たわりには伊福部先生に対する学生の興味は薄いようで、通常の利用者の関心を引くことが出来ませんでした。むしろ伊福部先生への関心は学外の人の方々のほうが高かったように思います。今後は展示内容によって一般への公開も考える必要があることを、図書館に提案していきたいと思います。

また、展示と平行して「伊福部昭生誕 100 年記念貸出展示」が行われました。図書館で貸出展示を行うことは初めてでした。

こちらは図書館が所蔵する伊福部先生関連の書籍を展示・貸し出しすることと、楽譜と CD は一覧をファイリングし検索の手間を省いて貸し出しすることにしました。

書籍に関してはそれなりに効果があったようでしたが、楽譜と CD に関しての効果は限定的で、今後現物の展示を含めて運用方法を考える必要があると思いました。



今後の課題

図書館の特集展示はまだ始まったばかりで、まだ様々な課題があります。

まず、展示をどのように企画し運営していくのかについて方針が模索中であること、そして、実際にどのような人的体制で取り組むのかが不明瞭であることが挙げられます。

今のところ図書館より単発でご依頼いただいた企画に協力させていただいていますが、本来なら事前にある程度長期的に計画を立て必要な予算・物品等を用意いただくのが望ましいと思います。今後、より効果的な展示のために、専用展示ケースのご購入を提案させていただきたいと思います。

また、図書館は学外者の立ち入りが基本的には出来ません。展示の内容によっては一般の人への開放も含めて検討する余地があると思われます。その際の資料の管理や公開の方法、広報のしかたを含めて検討する余地があります。

せっかくの資料も利用されなければ死蔵になってしまいます。特殊な資料やコレクションを含めて、所蔵する資料をどのように利用者に知ってもらうのか、また、活用してもらうのかのひとつの方法として、展示が効果的に機能するようにこれからも協力・提案させていただきたいと思います。

参考文献

東京音楽大学創立百周年記念誌刊行委員会編『音楽教育の礎 鈴木米次郎と東洋音楽学校』。
武石みどり監修。春秋社，2007年。

東京音楽大学付属図書館編『東京音楽大学伊福部昭「明清楽コレクション(資料)」目録』。
東京音楽大学付属図書館，2014年。

東京音楽大学付属図書館の展示のサイト。
2015年3月9日アクセス。 <http://tokyo-ondai-lib.jp/exhibition/>

東京音楽大学付属図書館のコレクションのサイト。
2015年3月9日アクセス。 <http://tokyo-ondai-lib.jp/collection/>